科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	宗教人類学 Anthropology of Religion			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　岩谷　彩子		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	水2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義の目的は、社会に流通している言説としての「宗教」や遠い国の異文化とみなされている「宗教」が、受講生の日常的な体験と同じ水脈を有していることに気づくことである。本講義を通して見えてくるのは、「宗教とは何であったのか」ではなく、わたしたちの日々の生活のなかですれ違っているさまざまな宗教の契機であり、「他者」そして「わたし」「わたしたち」の臨界点である。本講義では、基本的な宗教理論を学ぶとともに、インドをはじめとする異なる地域の宗教実践の事例や、改宗や原理主義の伸張、メディア報道といった現代の宗教をとりまく課題について、人類学的に考究する。信仰の世界がもつ豊かさや闇を知ることは、人間の被傷性と創造性に触れることでもある。また本講義では、宗教とそこに連なる他者をカテゴリーやステレオタイプに封じ込める力のはたらきについて、批判的にとらえることを目指したい。

[到達目標]

宗教を人類に共通する営みとして、さらには私たちの日常生活に潜在する実践としてとらえることで、宗教についての認識を深めることができる。

宗教間の相違が歴史的に発現し、社会環境と密接にかかわっていることを理解することで、宗教、社会、自己と他者についての深い洞察を得ることができる。

[授業計画と内容]

1．人間と聖なるもの
2．宗教の起源
3．アニミズムの世界
4．呪術の世界
5．憑依と儀礼
6．芸能と宗教
7．夢見と宗教
8．生と死―身体の境界域
9．ジェンダーと宗教
10．多神教と一神教
11．改宗とはなにか
12．宗教原理主義と現代
13．宗教とメディア
14．映像の宗教性

[履修要件]

人類学関連の講義を受講していることが望ましい

宗教人類学(2)へ続く↓↓↓

宗教人類学(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート・授業内での報告（40%）、期末試験（60%）を総合して評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
新井一寛、岩谷彩子、葛西 賢太(編) 『映像にやどる宗教、宗教をうつす映像』（せりか書房）
アサド、タラル 『宗教の系譜―キリスト教とイスラムにおける権力の根拠と訓練』（岩波書店）
岩谷彩子 『夢とミメーシスの人類学―インドを生き抜く商業移動民ヴァギリ』（明石書店）
サイード.E.W. 『イスラム報道』（みすず書房）
中沢新一 『虹の理論』（新潮社）
バタイユ、ジョルジュ 『宗教の理論』（人文書院）
モース、M. 『社会学と人類学』（弘文堂）
レリス、ミシェル 『日常生活の中の聖なるもの』（思潮社）

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の中で紹介する参考書にはできるだけ目を通しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

講義でのディスカッションを行うため、履修制限を行う。
受講生は身近な事象に引きつけて宗教現象を考察することが求められる。

[主要授業科目（学部・学科名）]